

# 市民ネットワークちば



湯浅美和子



山田京子

市民ネットワーク 市議会議員

発行責任者 佐々木典子

編集・発行 市民ネットワークちば 〒260-0013 千葉市中央区中央 4-10-11 TEL043-201-2551 FAX043-223-7701

## 市長マニフェストの検証

### 評価できる代表的な取り組み

Iでは、市長の倫理条例制定、有力者からの要望陳情の文書保存と公開、予算編成過程の公開。

IIでは、モノレール延伸の凍結、事務事業の評価の実施、補助金の見える化、外郭団体見直し開始。

IIIは、医療・福祉の分野です。これで完了というところはない分野なので、○をつけるのが難しいところですね。あえて取り組み開始を評価するならば、市立病院改革や国民健康保険料滞納への対応。

IVでは、保育所の拡充、焼却ゴミ3分の1削減の推進、子ども医療費助成の拡充。

2009年の市長選から4年目の夏、市民ネットワークちばでは来年の市長選に向けて、市長マニフェストを検証することにしました。

マニフェストは全部で84項目で、4大項目に分かれています。

I 市政の透明性を向上する  
II 大規模開発の見直し、行政の効率化による財政再建  
III 市民の命と幸せを大事にする千葉市を創る  
IV 未来への投資で全国に誇れる県都・千葉市へ

私たちは取り組み事業の進捗状況表（千葉市ホームページ参照 平成24年1月現在）をもとに、一つ一つ点検しました。

山田京子

### 進まなかったと思う項目

Iでは、市民参加条例の改定、自治基本条例の制定。

IIでは、都市計画道路の見直し。

IIIでは、放課後子ども教室の推進、シルバー人材センターの活用。

IVでは、奨学金制度の検討。

### 私たちが大切だと考えているにもかかわらずマニフェストになかった項目

- ▼人権尊重や男女共同参画に関する取り組み（人権尊重教育や条例制定、DVや性犯罪の対策など）
- ▼市民参加・市民活動に関する取り組み（政策決定過程への市民の参画、NPOの育成など）
- ▼農業政策（後継者や新規就農者、有機農業者への支援など）
- ▼若者支援策（ニート・引きこもり対策など）

### 3・11東日本大震災を経て新たに盛り込むべき施策は

- ▼放射能対策（継続的な調査や健康状態の把握、原発事故時の対策）
- ▼再生可能エネルギーへの取り組み（地産地消のエネルギーづくり）
- ▼防災（減災）対策（特に要援護者対策、耐震化は急務）

これらの項目については、市長との意見交換、議会質問、予算要望書、団体としての要望など、いろいろな手段を使って今後も働きかけていきます。



市長マニフェスト検証中

## 直撃取材

### 担当者にお話を伺いました

熊谷市長のマニフェストの進捗状況は市のホームページなどで見ることが出来ます。今回は多くのマニフェストの中から2項目を取り上げて、実際の現場がどうなっているのか調べてみました。

一つは「保育所が一杯で子どもを預けられないお母さんを一人でも減らす」という待機児童解消の施策。もう一つは「高齢者の知恵と元気が街に活力を与える千葉市を創る」ため充実させるとしたシルバー人材センターです。

実際にお話を伺ってみると、その状況は対照的なものでした。

### 待機児童の解消

千葉市は働きたい母親への対策が充実しているか

現在、新たな認可保育園の設置とともに、国の先取りプロジェクトを受けてのグループ型小規模保育の導入や、認定保育ルームの質の向上、ファミリーサポートセンター、家庭的保育員（保育ママ）など様々な施策が動いています。

また、共働き世帯が増加し保育園が不足する中、定員に余裕のある幼稚園を活用した待機児童対策として、幼稚園長時間預かり保育も始まっています。

認可保育園については国の基準を上回り、予算も十分に足りていることなどから、待機児童ゼロへの方向性ができていると感じました。

### シルバー人材センター

経験や能力を生かしつつ、生きがいづくりはできているか

定年退職後、あるいは家業引退後の高齢者に、一般家庭や民間企業、官公庁などから依頼された「臨時的かつ短期的な就業またはその他軽易な業務」を提供することで、その経験や能力を生かし、地域社会に貢献することを目指して運営されています。

市長マニフェストでは、街づくりに高齢者の経験と能力を生かし、生きがいをもたらすという面に重点が置かれていましたが、近年登録を希望する高齢者は、収入面を重視する人が増えているそうです。

震災・原発事故以後、企業・官公庁からの受注が減り、厳しい運営状況にあるとのこと。マニフェストで取り上げられたからといって、市からの働きかけや支援が特に拡大したわけではなく、受注の確保については、会員や職員の努力に負うところが大きいようでした。

今後ますます高齢化が進み、人材として登録する人数が増えることが予想されることから、センターの活動をPRして、気軽に使える身近なものにしてほしいと思います。またセンターも、仕事をもち取ってくるほどの気概がほしいと思いました。